

(10) キウイフルーツ

主要病害虫別防除方法

農薬による防除については、栽培ステージ、病害虫の発生状況等に応じて、散布、灌注、土壌消毒などを行う。
なお、農薬による防除の際は、農薬登録内容や使用上の注意等を遵守して実施する。

(農林水産省農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp/>)

病害虫名 (病原体)	農薬によらない防除
花腐細菌病 (細菌)	①適切な整枝剪定と枝の配置により通風、採光を良くする。ただし、台風などによる早期落葉は翌年の多発生を招くので、防風対策は十分に行う。 ②排水を良くする。 ③菌の越冬源となる異常休眠芽（芽先が割れる）を除去する。 【参考事項】 病原菌は樹上の樹皮表面や休眠芽に生息する。4月上旬以降開花期頃に雨が多いと多発する。
かいよう病 (細菌)	①低温障害を受けやすい地形での栽培を避ける。 ②防風ネットを張る。 ③12月頃から枝幹部を防寒する。 ④5月に枝幹部の発病組織を周囲の健全組織を含めて除去する。 【参考事項】 病原菌は葉の病斑部内及び枝幹部内に生息する。降雨によって気孔及び傷口から感染する。接ぎ木でも伝染する。病原性の異なる4系統が存在する。生育に好適な温度は10～20℃程度である。
果実軟腐病 (<i>Botryosph- aeria, Diap- orthe</i>)	①病原菌は果梗枝及び枯枝で越冬するので、剪定枝、果梗枝、枯枝を適切に処分する。 ②適正な剪定により通風、採光を良くする。 ③追熟温度は15℃以下とする。 【参考事項】 病原菌は樹上の枯れ枝、枝幹の切傷部、裂傷部に生息する。枝幹に形成された柄子殻から出た柄胞子で伝染する。発病適温は20～30℃で梅雨期に感染が多い。
クワシロカ イガラムシ	①寄生枝を剪定する。 ②枝葉の込み過ぎを避け、園内の通風を良くする。 【参考事項】 成虫で越冬する。5月、7月、9月の年3回発生する。 果実にも寄生する。
カメムシ類	①防虫網で覆う。 ②黄色蛍光灯でチャバネアオカメムシ成虫の飛来を防止する。 【参考事項】 成虫で越冬する。幼虫はスギ、ヒノキ、クワ科植物などで育ち、成虫が果実に移動して加害する。
キイロマイ コガ	①放任園などは成虫の飛来源となるおそれがあるので、園地周辺の環境を整備する。 【参考事項】 老熟幼虫で越冬する。成虫は年2回発生し、成虫が発生してから、ほぼ2週間前後から防除適期になる。
ハマキムシ 類	①剪定枝には越冬幼虫や卵がついているので園外に運び出して処分する。 【参考事項】 幼虫で越冬する。年4～5回発生する。6月中旬～7月下旬に発生が多い。